

## 史料編纂所所蔵『古文書目録』（『藤波家蔵文書記録目録』）

伴 瀬 明 美

## 【概要と紹介】

『古文書目録』（全一冊）は、大正六年二月刊行の謄写印刷による目録であり、史料編纂所に特別参考図書（請求記号RS一〇七〇―一六六、閉架）として架蔵されている。厚紙の外表紙に『藤波家蔵文書記録目録全』と記す手書き題箋が貼られ、四つ目綴じされているが、内表紙（本文共紙）の中央に「古文書目録」、左下隅辺に「藤波家蔵」と記され（これらも謄写印刷）、本所における登録名が『古文書目録』であることから、外表紙は史料編纂所に入ってから以後に付けられたものと思われる。<sup>1)</sup>

この『古文書目録』（以下『目録』と略す）は、現在「廣橋家旧蔵記録文書典籍類」として国立歴史民俗博物館が所蔵している広橋家旧蔵史料群が藤波家の所蔵となっていた時期の目録であり、大正五～六年にかけて、史料群が糊剥がれの継ぎ直しや装丁などの大規模な修補を経て藤波家からさらに岩崎家へと移る直前の状況を伝えるものとされる。<sup>2)</sup>

この史料群は昭和初期に岩崎家から財団法人東洋文庫に寄贈されるが、その際に作成された目録（『岩崎文庫和漢書目録』『広橋本』の項）と『目録』との間では掲載されている書名に多くの異同がみられる。筆者は別稿<sup>3)</sup>において「廣橋家旧蔵記録文書典籍類」中の一文書の考察を行った際、大正の修補では継ぎ直しや装丁が行われたのみならず、同様の文書を集め一卷にまとめて書名を付したり、巻分けが行われたりす

るなど、伝来してきた史料のあり方そのものにも手が加えられ、修補時に付された題箋等に書き入れられた符号と『目録』の項目・番号との間に対応関係がみられ、それによって史料群の修補前のあり方を復元しうるケースもあることを明らかにし、こうしたことや作成の時期からみて、『目録』は修補作業の一環として作成されたのではないかと推測した。

このように、『目録』は広橋家旧蔵史料群の書誌を考えるにあたって貴重な情報を含んでおり、この史料群の文書・記録・典籍等を用いた研究においても重要な資料になるものと思われる。また、Webcatで検索した限り、史料編纂所図書室以外の図書館等では所蔵を確認できなかった。これらをふまえ、謄写印刷本の目録ではあるが、全文を翻刻して紹介することとしたい。

ところで、図書としての他機関での所蔵は確認できなかったものの、本稿の作成に際して財団法人東洋文庫に照会したところ、同様の目録を所蔵しているのご教示を得た。ただし図書ではなく事務書類として保管されており、閲覧の対象とはされていないものであったが、同文庫のご高配により調査をさせていただいたところ、史料編纂所所蔵の『目録』（以下、史料編纂所本とする）と全く同じものであり、さらに興味深い書誌情報が含まれていることがわかった。

東洋文庫保管の『目録』（以下、東洋文庫本とする）は、縦二七・二×横一九・五cmの共紙表紙袋綴綴子。右端の上下二カ所に二つずつ穴を開けて紙縫で仮綴されている。史料編纂所本の綴じ目の奥を見ると東洋文庫本と同じ箇所には仮綴のための穴があり、本来は史料編纂所本も同じ綴じ方であったと思われる。共紙表紙の中央辺に「古文書目録」、左下隅辺に「藤波家蔵」とある点、全五一丁（表紙を除く）という丁数、記載内容、すべて史料編纂所の『目録』と同じである。

しかしながら、史料編纂所本との重要な相違点は、東洋文庫本には朱筆による訂正や書名の追加・削除などが見られることである。目録への加筆は史料編纂所本にも存在するが、加筆者・加筆時期ともに複数であり、加筆の意図も特定できないため、翻刻の対象外とした。しかし、東洋文庫本の朱書はすべて同筆とみられ、注目すべきことに、その筆跡は目録本文の筆跡と同じものとみられる。つまり、これらの補訂は目録の作成者（謄写版筆者が作成者と別の人物である場合には作成者の指示）によって行われたものと考えられるのである。さらに、訂正や追加が行われている箇所及び上下二つの綴じ目（表側・裏側計四か所）にはすべて同じ印が押されているが、その印文は「言忠」と読めることから、この印は史料群の当時の所蔵者藤波言忠氏のものとして推定される。

これらのことから考えると、東洋文庫本『古文書目録』は、謄写印刷本完成後に作成者がさらに追加・訂正を行い、所蔵者の確認印を押ししたものではないだろうか。それゆえ史料群と共に岩崎家に納められ、東洋文庫に寄贈されたものではないか。とすれば、この東洋文庫本こそが、『目録』の正本というべきものであったと考えられる。

したがって、翻刻にあたっては東洋文庫本を底本とすることが望ましいが、同文庫においては所蔵図書ではなく事務書類として管理されているという事情により、底本ではなく、史料編纂所本を翻刻するにあつ

ての対校本として利用し、朱書による補訂の内容を翻刻する許可をいただいた。<sup>(6)</sup>以下、組版の都合による制約はあるが、東洋文庫特有の記載の体裁を再現できるよう翻刻につとめた。

原本調査および翻刻にあたって格別の便宜を与えられた財団法人東洋文庫、とりわけ図書部會谷佳光氏・山村義昭氏にあつく御礼申し上げる。

#### [注]

- (1) 史料編纂所図書原簿によれば、本書は昭和三十六年十二月に登録されているが、実際に本所の所蔵となった時期や経緯は不明である。
- (2) 広橋家旧蔵史料群の伝来および大正年間の修補については、『大日本古記録 民経記 十一』所収「解題」において端的にまとめられている。
- (3) 伴瀨「応永年号の一散状から」『日本歴史』七七八号掲載予定。
- (4) 前注別稿では、『目録』の作成は大正の修補の一環として行われ、その作成者は修補を担当した上野竹次郎氏ではないかと推測した。とする『目録』の筆跡は上野氏のものとも考えられるが、作成者と謄写版筆者が同一人物とは限らず、別稿でも述べたように修補に関わって残された多くの筆跡の異同の判別に加えて『目録』筆跡との比較が必要であるため、『目録』が上野氏の筆によるものとすることは留保したい。
- (5) 印文の判読、および朱書の筆跡の判別には本所史料保存技術室和田幸大氏の協力を得た。
- (6) なお、東洋文庫保管の『古文書目録』の閲覧を希望する場合は、同文庫まで問い合わせをされたい。

#### 〈翻刻凡例〉

- ・基本的に常用漢字を用い、便宜、読点を補った。
- ・できるだけ原本の版面の体裁を保つようにつとめたが、とくに細字で書かれた箇所の体裁は組版の都合により改めた場合がある。
- ・明らかな誤字・脱漏等もみられるが、元典籍における記載を反映して

いる可能性を考え、基本的に原文のままとし、特に必要と思われる場合のみ「」をもって校訂注を付した。したがって、翻刻文中にみられる校訂は、原本に存在するものである。

・原本は謄写印刷であるため、字が潰れて判読が難しい箇所がある。その場合、当該箇所に□を挿入し、字が推定できる場合はそれを「」内に記した。

・東洋文庫本にみられる朱書は、組版の都合上、その位置を※印及び番号によって示し、内容を巻末にまとめて記した。

・目録の文書番号にみられる欠番は、原本のままである。

【翻刻】

(本表紙)

※1

古文書目録

藤波家蔵

(本表紙裏)

(東京大学蔵書印)

(史料編纂所蔵書印)

(二丁表)

凡例

- 一 本編ハ所蔵ノ古文書書目ヲ収ム、
- 一 本編ハ類別シテ珍貴書類、日記部類、叙任部類、儀式部類、改元部類、珍資料、資料ノ七項ニ分ツ、

一 珍貴書類、珍資料、資料ノ三項ハ所蔵者ノ都合ニ拠リテ其ノ目ヲ設ケタルニ過キス、日記部類以下悉ク珍貴書類珍資料タルハ論ヲ俟タス、

一 本編ハ多数ノ文書ヲ短時日ノ間ニ考查分類セシモノナレハ脱漏譌舛ハ必シモ免ルル能ハス、

大正六年二月

(二丁裏)

目次

- 一 珍貴書類
- 一 日記部類
- 一 叙任部類
- 一 儀式部類
- 一 改元部類
- 一 珍資料
- 一 資料

(二丁表、以下丁数略)

珍貴書類 甲

- 一 史記 夏本紀 高山寺本 十八枚 一卷
- 二 史記 秦本紀 高山寺本 廿八枚 一卷

奥云、永万元年十二月廿六日伝記之、嘉応三年応鐘十二日南於崇仁坊殿以家説被授了、花押天文二十二年八月八日云々、八月十二日移了、

※2

※3

- 三 日本書紀 卷第廿二推古 端欠 奥云、以下部家本校之、花押 一卷
- 四 日本書紀 卷廿四皇極 奥云、宝徳三二廿一点校了、文明六五晦重以下氏本校之畢、花押 一卷

- 五 尚書 端編不詳 尚書君牙第廿七尚書照命第廿八尚書孔氏伝 尚書呂刑第廿九尚書孔氏伝 尚書說命上第十二尚書般庚中第十尚書孔氏伝 般庚下第十一尚書說命下第十四尚書孔氏伝 高宗彤日第十五尚書孔氏伝 西伯戡黎第十六尚書孔氏伝 微子第十七尚書孔氏伝(二十二枚等) 一卷
- 六 扶桑略記 皇極 孝德 齊明 奥云、貞永二年二月九日於坂本書畢、同十日於灯下移点校合、于時正第五日也、定任 二卷
- 七 吉部秘訓鈔 裏、合義解 一卷
- 八 吉部秘訓鈔 裏、律 一卷
- 九 延喜格 燒損 一冊
- 一〇 歌書(明恵上人歌集) 奥云、宝治二年暮春八日、禪阿院ニシテ記之、遺弟非人高信 一卷
- 一一 貫首秘抄 (時輩談語)奥云、此書故吉田戸部被書写之歟、其後新黃門藏人頭之時又写之云々、予借讀彼本書写之、承元五年二月日藏人頭左大弁藤花押 一卷
- 一二 古写本 端欠 諫德政無信第一、諫討征無信第二、諫賞罰不正第三、誅盜賊過奢第四、誠諸國守護第五、誠武士高官第六、誠貴嫁遊女第七 一卷
- 一三 古写本 端欠 端云、日月五星之運行云々、似絵、詩、競馬、音楽、神楽、和歌、能書、説法 一卷
- 一四 弁官補任 自昔至久寿元年 一卷
- 一五 古写本 端欠 端云、師保語云々、 一卷
- 一六 明文鈔 端中欠 卷第四人事部 二卷
- 一七 除目記 奥云、以右大将公能本書之、保元二年正月藏人權右中弁花押 一卷
- 珍貴書類 乙
  - 一 右大弁内光権右少弁経遠状 二通 一括
  - 二 論語集解 端云、醍醐山古文書之中、論語集解二卷、白岡白殿政通公借賜、令家僕書写畢、可秘藏者、嘉永四年権大納言藤原光成 二卷
  - 三 嘉祿仁王会記 奥端欠、奥二十四日ノ記アリ、恐、クハ日記殘欠歟、姑ク部類ニ入ル、 一卷
  - 四 改元記 嘉祿 安貞 寛喜度 頼資卿筆 一卷
  - 五 貞応二年以降元日白馬節会部類 経光卿筆 一卷
  - 六 古文書 卅三通 一括
  - 七 古文書 廿四通 一括
  - 八 古文書 一括
- 九 伊勢神宮関係古文書 十三通 一括
  - 一〇 古文書 元亨四年 一括
  - 一一 革命記 元亨四年 一括
  - 一二 伊勢神宮文書 四十一通 一括
  - 一三 維摩会御記 嘉禎三年十月 経光卿記 一卷
  - 一四 摂政官方吉書部類 奥欠 寿永三年以降 一卷
  - 一五 建仁二年以降熊野詣記 一卷
  - 一六 孝経 弘安二年ノ奥書アリ、 一卷
  - 一七 摂家拝賀部類記 一卷
  - 一八 古写本 端欠 端云、仏事資材云々、 一卷
  - 一九 古文書 一卷
  - 二〇 古文書 鎌倉末期 一括
  - 二一 行幸部類 端云、今夕還御閑院云々、 一卷
  - 二二 改元記 十九枚 一卷
  - 二三 元仁二年御齋会御参事 参議要 一卷
  - 二四 儀式書類 奥云、文治二年六月十六日校了、花押、一見了、参議右大弁花押 一卷
  - 二五 年中行事 頼資卿筆 一卷
  - 二六 年中行事 一卷
  - 二七 古文書 一卷
  - 二八 古記 端欠 端云、寺物云々、奥云、正安四年五月八日桑門在行 一卷
  - 二九 改元記 寛元 宝治 建長度 経光卿筆 一卷
  - 三〇 太子加冠理髮記 寛仁三年八月廿八日ノ奥書アリ、 一卷
  - 三一 維摩会勅使参向記 治承以降 経光卿筆 一卷
  - 三二 内裏式 一卷
  - 三三 中宮若宮行啓記 経光卿筆 一卷
  - 三四 年号勘文 裏貴重 一卷
  - 三五 書籍奥書 参議藤原宗冬 一枚

三九 古文書  
四〇 珍籍

日記部類

○第二十一号函

教業記 (写) 保延七年正月二月

朝隆卿記拔書 康治元年七月条 引接院殿筆

嘉保三年記 (写) 三月 断篇

康治三年日記 (写) 自正月一日至廿六日 奥端欠 清原重憲記

康治三年日記 (写) 自正月一日至廿六日 清原重憲記

天養元年日記 (写) 自三月四日至四月廿九日

天養元年日記 (写) 自二月一日至卅日 清原重憲記

治承四年日記 (写) 自五月一日至七月廿九日

治承四年日記抄 (写) 自二月十三日至七月八日

承元四年日記 端奥欠 修明門院御幸事

建保五年日記

嘉祿二年日記 自四月至九月

嘉祿二年日記 自十月至十二月 奥云、德治三年後八月一日取目六了、正和二年五月十一日取目六了、秘事少々記之、可有外見、可有他見、殿上人作法少々在之云々

嘉祿三年曆記 自四月十三日至六月廿八日

嘉祿三年曆記 自七月至九月

嘉祿三年曆記 自十月十四日至廿九日

嘉祿三年曆記 十二月 端欠 奥云、正和二年五月十七日取目六了、十一月十二日

安貞元年曆記 自十月一日至十六日

安貞二年日記 自十月十七日至卅日

安貞二年日記

一卷

寬喜元年日記 五月六月  
寬喜元年日記 自九月十一日至十四日

三冊

寬喜三年日記 正月

寬喜三年日記 自正月十四日至十九日 表紙云、自正月一日至十三日

寬喜三年日記 自正月廿四日至晦日 端欠 奥云、元応元年六月十一日取目六了、自三月一日至三十日

寬喜三年日記 自三月一日至三十日 奥云、元応元年六月十三日取目六了、自三月九日至十一日 (写)

寬喜三年日記 自四月一日至九日 奥欠

寬喜三年日記 自四月十一日至十五日

寬喜三年日記 自四月十六日至廿九日 奥欠

寬喜三年日記 自五月一日至十九日 奥欠

寬喜三年日記 自五月十七日至廿一日 奥端欠

寬喜三年日記 自六月一日至晦日 奥云、元応元年六月廿八日取目六了、正慶二年正月十八日取目六了、自七月一日至七日 奥欠

寬喜三年日記 自七月十二日至廿八日 端欠、十社奉幣之事、宣命作者、外記勸例 奥云、元応元年六月廿八日取目六了、八月 奥欠 伊勢公卿勅使御申沙汰

寬喜三年日記 自九月一日至廿九日 奥云、元応元年七月六日取目六了、自十月一日至九月 神宮公卿勅使発遣之事 奥云、元応元年七月廿六日取目六了、自十一月一日至十七日 奥欠

寬喜四年日記 二月 文保三年三月三日取目六了、元弘三年五月廿八日取目六了、三月 奥云、文保三年三月三日取目六了、元弘三年五月廿八日取目六了、四月 奥云、文保三年三月四日取目六了、元弘三年五月七日取目六了、自五月一日至廿九日 奥云、文保三年三月四日取目六了、元弘三年五月七日取目六了、自七月一日至晦日

貞永元年日記 八月 端奥欠

貞永元年日記 自閏九月一日至晦日

貞永元年日記

貞永元年日記

寬喜四年日記

寬喜四年日記

寬喜四年日記

寬喜四年日記

寬喜三年日記

寬喜三年日記

寬喜三年日記

一卷

- 貞永元年日記 自十月一日至十六日 端奥欠 一卷
- 貞永二年日記 自正月十三日至廿九日 一卷
- 貞永二年曆記 自正月至六月 一卷
- 貞永二年日記 自四月二日至十四日 奥云、一見加首書了、文保三年三月十四日取目六了、元弘三年六月十九日取目六了、  
自四月十六日至卅日 九日取目六了、  
天福元年日記 奥云、文保三年三月十五日取目六了、  
自五月一日至廿四日 一卷
- 天福元年日記 六月二日 奥端欠 一卷
- 天福元年日記 六月 奥云、文保三年三月十五日取目六了、  
自正月二日至十四日 卷末裏具注曆 一卷
- 天福二年日記 六月 奥端欠 一卷
- 仁治二年日記 (写) 一卷
- 仁治三年日記抄 (写) 一卷
- 仁治三年日記 (写) 一冊
- 寛元三年日記 自十二月廿八日 奥端欠 一卷
- 寛元年間日記 裏面ノ文ニ摺テ按ニ恐クハ寛元二年ノ記歟、  
十二月廿二日 奥端欠 一卷
- 寛元年間日記 自正月一日至十二月晦日 一卷
- 寛元四年曆記 自十月一日至閏十月廿七日 一卷
- 正元元年日記 自十一月二日至廿八日 一卷
- 正元元年日記 自十一月廿九日至十二月卅日 一卷
- 正元元年日記 自七月至九月 奥端欠 一卷
- 文永三年曆記 十二月 奥端欠 一卷
- 文永四年曆記 自正月至十二月 一卷
- 文永四年曆記 自二月八日至三月十四日 一卷
- 文永四年日記 自二月廿五日至三月卅日 一卷
- 文永十一年曆記 自正月一日至十二月卅日 奥云、正和五年後十月十二日肝要所取目六了、  
自七月十日至九月廿九日 一卷
- 文永四年日記 一卷

日記抄 (写) 自文永四年正月十六日至弘安十年五月廿八日 一卷

○第二十二号函

- 建治元年日記 自正月廿一日至二月廿六日 奥端欠 一卷
- 建治元年日記 自十月廿一日至十一月卅日 一卷
- 建治元年日記 自十二月一日至十七日 奥云、元亨三年七月十九日取目六了、  
自建治二年十一月一日至十七日 自弘安四年閏七月三日至卅日 一卷
- 建治二年弘安四年日記抄 奥云、元亨三年後六月廿五日抄出、元亨二年七月九日取目六了、 一卷
- 建治二年日記 自七月一日至九月晦日 奥云、元亨元年六月廿八日抄出了、大永五年九月一日一覽之次抄出了、又取目六了、  
自十一月廿五日至十二月廿六日 奥云、元亨元年六月十五日抄出了、大永五年九月七日一覽之次抄出了、 一卷
- 建治二年日記 自正月一日至三日 奥欠 一卷
- 建治三年日記 自正月三日至三月廿九日 奥端欠 一卷
- 建治弘安御記 断篇 一卷
- 弘安元年日記 自五月一日至十二月 一卷
- 弘安元年日記 自十月一日至十二月七日 奥云、元亨元年六月廿八日抄出了、元亨四年九月八日抄出了、  
自正月一日至二月十七日 奥云、元亨元年六月廿八日抄出了、元亨四年九月四日抄出了、  
自三月一日至五月一日 奥云、元亨元年六月廿八日抄出了、元亨四年九月八日取目六了、  
自七月一日至九月卅日 奥云、元亨元年六月廿八日抄出了、元亨四年九月八日取目六了、  
自十一月五日至廿六日 奥端欠 一卷
- 弘安二年日記 自正月十一日至二月十六日 奥端欠 一卷
- 弘安三年日記 奥云、元亨元年六月九日抄出了、元亨四年九月十一日令取目六了、  
自五月一日至廿七日 奥欠 一卷
- 弘安三年日記 自六月一日至十日 奥欠 一卷
- 弘安四年日記 自七月十日至八月卅日 一卷
- 弘安四年日記 自四月一日至六月廿一日 奥云、元亨元年七月九日取目六了、  
自八月一日至九月廿九日 奥云、元亨元年六月廿五日抄出、元亨二年七月十六日取目六了、 一卷
- 弘安四年日記 一卷

弘安四年日記	自十月十四日至十八日 奥端欠	一卷	弘安十年日記	自二月一日至十一日 奥欠	一卷
弘安五年日記	自正月一日至三月廿九日 奥云、応長元年七月六日抄出了、元亨二年七月廿二日取目六了、 自七月一日至八月二日	一卷	弘安十年日記	自二月十五日至廿四日 端奥欠	一卷
弘安五年日記抄	自八月七日至九月廿八日 端欠 奥云、応長元年七月二日抄出了、元亨二年七月廿二日取目六了、大永五年九月十日取目六了、 自十月一日至十二月廿九日	一卷	弘安十年日記	自三月十七日至四月卅日	一卷
弘安五年日記	奥云、応長元年七月八日抄出了、元亨二年七月廿三日取目六了、 自正月一日至三月廿九日	一卷	弘安十年日記	自五月一日至廿九日 奥云、正和二年三月廿七日抄出了、 自六月一日至卅日	一卷
弘安六年日記	奥云、応長元年十一月八日於灯下抄出了、 自四月一日至六月卅日	一卷	弘安十年日記	奥云、正和二年三月廿七日抄出了、 自七月一日至十三日 奥欠	一卷
弘安六年日記抄	自七月一日至九月四日 奥云、応長元年十一月八日抄出、	一卷	弘安十年日記	自七月十三日至十四日 端欠 奥云、正和二年三月廿八日抄出了、延慶三年十月廿七日取目六了、 自八月一日至卅日 中奥欠	一卷
弘安六年日記	奥云、応長元年十一月十二日於灯下抄出了、 自正月一日至十二月廿九日	一卷	弘安十年日記	奥云、正和二年四月廿九日抄出了、延慶三年十月廿九日取目六了、 自九月十九日至十月卅日 奥云、正和二年五月四日抄出了、 断篇 伊勢月読宮遷宮宣命以下	一卷
弘安七年日記	自二月一日至廿七日 奥欠	一卷	弘安十年日記	自正月一日至十日	一卷
弘安七年日記抄	自二月廿七日至廿九日	一卷	弘安十一年日記	自正月十一日至十六日	一卷
弘安七年日記	自三月一日至廿四日 奥欠	一卷	弘安十一年日記	自正月十六日至廿三日 奥端欠	一卷
弘安七年日記	自四月一日至閏四月廿九日 奥云、応長二年正月廿三日抄出了、 自五月一日至廿九日	一卷	弘安十一年日記	自二月一日至卅日	一卷
弘安七年日記	奥云、応長二年正月卅日抄出了、 自六月一日至廿五日	一卷	弘安十一年日記	自二月十一日至十二月廿九日 端欠	一卷
弘安七年日記	奥云、応長二年二月一日抄出了、 自七月一日至八月卅日	一卷	弘安十一年日記	自三月一日至廿七日	一卷
弘安七年日記	奥云、応長二年二月二日抄出、 自九月一日至廿九日	一卷	弘安十一年日記	自四月一日至廿一日	一卷
弘安七年日記	奥云、応長二年二月二日抄出了、 自十月一日至十一月卅日	一卷	弘安十一年日記	自四月廿五日至廿九日 端欠	一卷
弘安七年日記	奥云、応長二年二月五日抄出了、 自正月五日至三月廿六日	一卷	伏見院宸記 (写)	自弘安十年至正応六年	一卷
弘安九年日記	自三月廿七日至四月一日	一卷	○第五号函		
弘安九年日記	自四月一日至五月廿九日 奥云、正和元年四月五日抄出畢、 自七月一日至十六日 奥欠	一卷	正応元年日記	自五月十六日至廿日 奥端欠	一卷
弘安九年日記	自九月一日至廿九日 奥云、正和元年四月十八日抄出了、 自十月一日至晦日歟、奥腐損甚キ為不明、 奥云、正和元年四月廿二日抄出了、 自十二月一日至閏十二月十八日 奥云、正和元年四月廿四日抄出了、	一卷	正応元年日記	自六月一日至廿九日	一卷
弘安九年日記		一卷	正応元年日記	月不明、或六月歟、自廿三日至廿九日 端欠	一卷
弘安九年日記		一卷	正応元年日記	自七月一日至八月三日 奥欠	一卷

正応元年日記	自八月四日至廿八日	端欠	一卷	光業卿記	年代不明	端欠	鎌倉末期歟	一卷
正応元年日記	自九月一日至廿九日		一卷	元亨四年日記抄	奥云、元応元年七月二日取目六了、			一卷
正応元年日記	自十月二日至十一月三日	奥端欠	一卷	観応三年日記	自十一月四日至十二月四日	奥端欠		一卷
正応二年日記	自正月一日至二月廿八日	端欠	一卷	応安八年日記	四月廿八日			一卷
正応二年日記	奥云、正和二年正月廿八日於灯下加首書了、 自三月一日至廿日	奥欠	一卷	永徳三年明德五年日記抄	自十二月十八日至廿七日			一卷
正応二年日記	自四月十三日至廿一日	奥欠	一卷	至徳三年日記	自二年正月一日至三年二月七日			一卷
正応二年日記	自四月廿一日至廿六日	奥端欠	一卷	嘉慶年間日記抄	自正月六日至十二月四日	端奥欠		一卷
正応二年日記	自四月廿八日至五月五日	端欠	一卷	応永元年日記	自正月一至十二月卅日			一卷
正応二年日記	自十月二日至十八日	端奥欠	一卷	応永二年日記抄	自正月一至十二月卅日			一卷
正応二年日記	自十月十八日至卅日	端欠	一卷	応永三年日記抄	十一月			一卷
正応二年日記	奥欠、卷首云、此卷所々他筆混雜見合可綴改也、 日次合ハズ、恐クハ他筆ニアラスシテ綴合ヲ誤レルナラン、 自正月一日至十四日		一卷	応永四年日記抄	六月	※4		一卷
正応四年日記	自十月一日至三日		一卷	応永五年日記抄	正月四日			一卷
正応五年日記	自九月二日至十四日	端奥欠	一卷	応永八年日記	自五月廿一日至六月廿日			一卷
正応五年日記	自九月廿二日至卅日		一卷	応永八年日記	自十月十八日至廿五日			一卷
正応五年日記	自十一月一日至至七日		一卷	応永九年日記	自正月一日至九日	奥欠	裏仮名曆	一卷
正応六年日記	奥云、貞和二年三月十九日取目六了、 自六月一日至四日、記録所庭中結番記		一卷	応永九年日記	自正月十日至十三日	端奥欠		一卷
正応六年日記	自八月一日至五日		一卷	応永九年日記	自正月十四日至二月廿日	端欠	裏仮名曆	一卷
永仁元年日記	自八月七日至十六日	奥端欠	一卷	応永十年日記	自二月一日至六月廿一日	奥欠		一卷
永仁元年日記	自十二月一日至卅日		一卷	応永十二年日記	自七月一日至十一月			一卷
永仁二年日記	奥云、康永四年抄出了、 自正月一日至卅日		一卷	応永十二年日記	自十二月二日至六日	奥欠		一卷
永仁二年日記	自正月一日至四月廿二日		一卷	応永十二年日記	自十二月二日至六日	奥欠		一卷
永仁二年日記	自二月一日至六日		一卷	応永十三年日記抄	自正月十六日至廿三日			一卷
永仁二年日記	自三月一日至十九日		一卷	応永十四年日記抄	自正月一日至三月廿八日			一卷
永仁二年曆記	自四月三日至十二月十五日	奥端欠	一卷	応永廿二年日記抄	自七月四日至八月十四日			一卷
永仁二年日記	十二月廿二日	奥端欠	一卷	応永廿二年日記抄	自十月廿三日	端欠		一卷
				応永廿四年日記	自正月一日至四日	端奥欠	奥具注曆	一卷

応永廿四年日記	自正月七日至十一日 端奥欠 奥具注曆	一卷	応永卅一年日記	月不明 自十日十三日 端奥欠	一卷
応永廿四年日記	自八月廿三日至廿九日	一卷	応永卅二年日記	五月一日 奥欠	一卷
応永廿四年日記	自十二月十三日至十四日	一卷	応永卅二年日記	自五月二日至閏六月廿九日 端欠	一卷
応永廿五年日記	自七月十七日至十一日	一卷	応永卅二年日記	自八月廿日至十一月廿日 端欠	一卷
応永廿六年日記	三月廿一日 端奥欠	一卷	応永卅二年日記	自十一月廿一日至十二月廿四日	一卷
応永廿七年日記	自五月六日至七日	一卷	応永卅三年日記	自三月二日至五月廿九日	一卷
応永廿九年日記	二月七日	一卷	応永卅四年曆記	自十一月一日至十二月廿七日	一卷
応永廿九年曆記	自二月八日至三月廿八日 端奥欠	一卷	応永卅四年日記	自四月十五日至八月廿八日 端奥欠	一卷
応永廿九年曆記	自四月十八日至六月廿七日 端奥欠	一卷	応永卅五年日記	自二月十五日至十七日 端奥欠	一卷
応永廿九年曆記	自十二月四日至廿九日	一卷	応永卅五年日記	自二月十八日至三月十九日 端奥欠	一卷
応永三十年曆記	自二月五日至廿四日 端奥欠	一卷	応永卅五年日記	自三月廿日至卅日 端欠	一卷
応永三十年曆記	自二月廿四日至廿七日 端奥欠	一卷	応永卅五年日記	自五月十七日至七月廿二日 端中欠	一卷
応永三十年曆記	自三月一日至廿九日	一卷	応永年間日記	年次不明 自十七日至廿七日 端欠	一卷
応永三十年曆記	自四月五日至五月廿八日 奥欠	一卷	応永年間日記	年次不明 自二月四日至八日 端奥欠	一卷
応永三十年日記抄	自四月十九日至廿日	一卷	正長元年日記	自三月二日至五月十五日 端奥欠	一卷
応永三十年曆記	自七月六日至八月廿八日 端奥欠	一卷			
応永卅一年日記	自二月九日至十五日 奥端欠	一卷			
応永卅一年日記	自三月一日至十四日	一卷			
応永卅一年日記	三月九日 奥欠	一卷			
応永卅一年日記	自四月一日至九日 奥端欠	一卷			
応永卅一年日記	四月九日	一卷			
応永卅一年日記	五月十五日	一卷			
応永卅一年日記	自八月一日至廿四日	一卷			
応永卅一年日記	自八月廿一日至廿五日 奥欠	一卷			
応永卅一年日記	自八月廿五日至十月廿九日 端欠	一卷			
応永卅一年日記	自十一月七日至廿五日 奥端欠	一卷			
			○第二十三号函		
			顯朝卿記後崇光院記 (写) 宝治二年正月十七日 応永十八年三月八日		
			弘長三年日記 七月廿七日		
			永享四年日記 十二月八日 奥欠		
			文安三年曆記 自正月一日至六月十三日 奥欠		
			文安三年曆記 自六月十五日至十二月卅日 端欠		
			文安五年日記 自八月一日至九月廿九日		
			文安六年日記 自三月廿四日至五月一日 奥端欠		
			宝徳元年日記 自七月十一日至九月六日 奥端欠		
			宝徳元年日記 自十一月廿日至十二月廿一日 奥端欠		

宝徳元年日記	自十二月二日至十二日	奥端欠	裏具注曆	一卷	文明八年日記	自正月一日至六日	一卷
宝徳二年日記	自二月四日至三月廿九日	奥端欠	裏具注曆	一卷	文明九年曆記	自五月卅日至八月廿九日	一卷
宝徳二年日記	自四月十八日至六月廿九日	奥端欠		一卷	文明九年曆記	自九月六日至十二月十日	端奥欠
宝徳二年日記	自七月十日至十二月廿四日	端欠	裏具注曆	一卷	文明十年曆記	自正月廿七日至七月卅日	端欠
宝徳三年日記	自四月廿一日至九月四日	奥端欠	裏具注曆	一卷	文明十年日記	自四月四日至廿九日	端欠
享徳二年日記	自四月廿二日至廿九日	端欠		一卷	文明十年日記	自七月一日至三日	奥欠
享徳二年日記	自十二月十七日至廿六日	裏仮名曆		一卷	文明十年日記	自七月四日至廿八日	端欠
享徳三年日記	自正月一日至十五日	奥欠		一卷	文明十年日記	自八月一日至廿九日	端欠
享徳三年曆記	自六月十日至十七日	奥端欠		一卷	文明十年日記	自九月一日至十日	奥欠
享徳三年曆記	自六月廿二日至七月十六日	端奥欠		一卷	文明十一年日記	自正月八日至廿日	
享徳四年日記抄	自十一月十一日至十二月廿九日	端欠		一卷	文明十一年日記	自四月一日至二日	
康正元年日記	八月廿七日			一冊	文明十一年日記	自四月四日至十四日	
康正二年日記	自二月十日至三月十二日			一卷	永正年間日記抄	自四月十二月至五年十二月	
康正三年日記抄	正月			一卷	永正年間日記	書冊手入ヲ要ス、	
長祿四年日記	自三月七日至十八日			一卷	永正十一年日記	自七月初至八月廿二日	奥欠
寛正三年曆記	自二月一日至十二月卅日	端欠		一卷	大永五年日記	自正月六日至廿日	
寛正三年日記	六月			一卷	大永五年日記	自十月一日至廿九日	
寛正五年曆記	自七月十一日至十二月廿九日	端欠		一卷	大永六年日記	自二月六日至卅日	端欠
寛正五年日記	自十一月廿八日至十二月五日			一卷	天文十五年日記	自十月一日至十二月十九日	
寛正六年日記	自二月三日至四日			一卷	元禄六年日記	自十月八日至廿九日	
寛正六年日記	自三月廿五日至廿七日			一卷	元禄七年日記	自正月一日至二月一日	
寛正六年日記	自九月廿一日至廿二日	裏仮名曆		一卷	元禄十三年日記	十二月	
寛正七年日記	自正月廿五日至廿六日			一卷	小槻時元記	奥云、享保十七年初冬書写訖、花押	
自寛正七年至応仁元年日記抄				一卷	押小路公茂公記	奥云、此一巻被借下禁御本正記也、嚴君令書写校合給畢、寛文二曆仲春下流、参議左大弁藤原資熙	
応仁元年日記	四月十日	奥欠	裏仮名曆	別二奥二宝徳年間記ヲ付ス、裏具注曆	玉葉零本 (新写)		一冊

○第一号函

一	年代不明日記	残欠	自八月一日至八日 端云、一言上之旨云々、	一卷	二六	年代不明日記	残欠	自十二月一日至廿三日 端云、由申之云々、奥云、応長元年七月四日抄出了、	一卷
二	年代不明日記	残欠	自廿四日至廿九日 端云、廿四日庚子陰云々、	一卷	二七	年代不明日記	残欠	自一日至三日 端云、次第参云々、	一卷
三	年代不明日記	残欠	自廿六日至卅日 端云、自北——御即位之時、高御座云々、	一卷	二八	年代不明日記	残欠	自廿五日至廿八日 端云、廿五日丙戌晴云々、	一卷
四	年代不明日記	残欠	自二日至六日 端云、藤房令申云々、	一卷	二九	年代不明日記	残欠	自二日至十三日 端云、再御幕守等——	一卷
五	年代不明日記	残欠	十四日 端云、出門外夜云々、	一卷	三〇	年代不明日記	残欠	自十一月七日至廿二日 端云、関白左大臣云々、	一卷
六	年代不明日記	残欠	自廿二日至三十日	一卷	三一	年代不明日記	残欠	自四日至廿九日 端云、從四位下橘以隆云々、	一卷
七	年代不明日記	残欠	自十月十日至上月十七日 端云、十月十日左中弁俊光云々、	一卷	三二	年代不明日記	残欠	端云、酒番華人正盛季云々、	一卷
八	年代不明曆記	残欠	自十月十一日至十二月廿八日 依裏按、文明九年記歟、	一卷	三三	年代不明日記	残欠	自廿五日至廿九日 端云、後日腰句云々、	一卷
九	年代不明日記	残欠	自六日至廿四日 端云、参向——可給云々、大虫入綴合ヲ要ス、	一卷	三四	年代不明日記	残欠	自二日至廿九日 端云、晴参院以爲方朝臣云々、奥云、応長二年二月六日抄出了、	一卷
一〇	年代不明日記	断篇		一括	三五	年代不明日記	残欠	自四月十四日至廿日 端云、旬御定御申云々、	一卷
一一	年代不明日記	残欠	自廿八日至卅日 端云、二応□詩アリ、	一卷	三六	年代不明曆記	残欠	自正月一日至二月十日	一卷
一二	年代不明日記	残欠	自十月十九日至十二月卅日 端云、堂童子云々、	一卷	三七	年代不明日記	残欠	自十二日至十六日 端云、配文云々、	一卷
一三	年代不明日記	残欠	端云、——申云、祐俊祐継云々、	一卷	三八	年代不明日記	残欠	自五月七日至六月一日 端云、近臣云々、	一卷
一四	年代不明曆記	残欠		一括	三九	年代不明曆記	残欠	自五日至廿九日 端云、上是万里小路藏人云々、裏具注曆	一卷
一五	年代不明曆記	残欠		一括	四〇	年代不明日記	残欠	端云、堀川——云々、奥云、大永五年九月六日一覽了、少抄出了、又取自六了	一卷
一六	年代不明日記	残欠	端云、晴早且云々、	一卷	四一	年代不明日記	残欠	自十月廿八日至十一月八日 端云、除目爲朝家重事云々、	一卷
一七	年代不明曆記	残欠	自六日至七日 端云、吕安名尊云々、	一卷	四二	年代不明日記	残欠	自十日至十七日 端云、庚戌晴云々、	一卷
一八	年代不明日記抄	残欠	自五月十一日至六月五日 端云、時也、前宮大臣云々、	一卷	四三	年代不明日記	断篇	端云、家君参室町殿云々、	一括
一九	年代不明日記	残欠	自六日至廿九日 端云、書候云々、	一卷	四四	年代不明日記	断篇		一括
二〇	年代不明曆記	残欠	自七月九日至十二月十日	一卷	四五	年代不明日記	残欠	自十一月廿四日至十二月八日 端云、夜陰参云々、	一卷
二一	年代不明曆記	残欠	自十一月六日至十二月廿九日 端云、廿六日庚子云々、	一卷	四六	年代不明曆記	残欠	自五月廿四日至六月九日	一卷
二二	年代不明日記	残欠	自廿六日至廿九日	一卷	四七	年代不明曆記	残欠	自十九日至廿九日	一卷
二三	年代不明日記	残欠	自十一日至廿九日 端云、不明	一卷	四八	年代不明日記	断篇	自九月十八日至十月十七日 端云、准后云々、	一卷
二四	年代不明日記	残欠	自六月一日至七月十九日	一卷	四九	年代不明曆記	断篇	端云、三日壬午木開云々、	一括
二五	年代不明曆記	残欠	自正月二日至六月廿九日	一卷	五〇	年代不明日記	残欠	自六月一日至廿七日 端云、伝達執柄大臣云々、	一卷
					五一	年代不明日記	残欠	自一日至九日 端云、文一一七月一日云々、	一卷

五二	年代不明日記	残欠	七月二日 端云、可被左服云々、	一卷	七八	年代不明日記	残欠	端云、用途於院家云々、	一卷
五三	年代不明日記	残欠	自七月廿二日至八月廿六日 端云、諷々英氣云々、	一卷	七九	年代不明日記	残欠	端云、次有御神樂云々、	一卷
五四	年代不明日記	残欠	自廿二日至廿七日 端云、天晴烈風云々、	一卷	八〇	年代不明日記	断篇		一卷
五五	年代不明日記抄	残欠	自一日至廿二日 端云、一日晴早且云々、	一卷	八一	年代不明日記	残欠		一卷
五六	年代不明曆記	残欠	自十七日至廿九日 端云、晴会賀敷云々、	一卷	八二	年代不明日記抄	残欠	端云、十一月十九日云々、以外実朝也云々、	一卷
五七	年代不明日記	残欠	自十七日至十八日 端云、等連軒云々、	一卷	八三	年代不明日記	残欠	裏具注曆 綴合ヲ要ス、	一卷
五八	年代不明日記	残欠	自廿二日至廿八日 端云、若宮云々、	一卷	八四	足利時代日記貼込			一卷
五九	大府記	端不明		一卷	八五	日記抄	端云、建長六年云々、		一卷
六〇	年代不明日記抄	残欠	端云、為通靈会云々、中二承安ノ年号散見	一卷	八六	日記抄	永和三年ノ記アリ、		一卷
六一	年代不明日記	残欠		一卷	八七	日記抄	長享延徳明応ノ記アリ、		一卷
六二	日記抄	元故一品記下題ス、		一卷	八八	中山入道重相記拔書	奥云、康正二年七月八日書写之、以都護御本写之畢、黄門藤原綱光		一卷
六三	年代不明日記	残欠	自十一日至卅日 端云、殿上人前駈云々、	一卷	八九	年代不明日記	断篇		一括
六四	年代不明日記	残欠	自五月晦日至七月六日 端云、之神馬云々、	一卷	九〇	年代不明日記	残欠	端云、光資令供奉云々、	一卷
六五	年代不明日記	残欠	端云、一ノ年十月十四日云々、	一卷	九一	年代不明日記	残欠	端云、入夜御浴御拜如常云々、	一卷
六六	年代不明日記	残欠	自四月廿六日至廿七日 端云、御使下家司為有云々、	一卷	九二	年代不明日記	残欠	端云、二日己未雨降云々、	一卷
六七	年代不明日記	残欠	自八月十一日至十二月廿日 端云、十一日時々小雨云々、	一卷	九三	年代不明日記	残欠	自二月一日至四日 端云、癸亥晴云々、	一卷
六八	年代不明日記抄	残欠	自六月廿二日至八月十二日 自至徳四年正月朔日至廿六日	一卷	九四	年代不明日記	残欠	端云、九日朝間有陰氣云々、	一卷
六九	年代不明日記	残欠	端云、実吉朝臣云々、	一卷	九五	年代不明曆記	断篇		一卷
七〇	年代不明日記	残欠	端云、実隆少将云々、	一卷	九六	年代不明日記	残欠	自廿五日至廿七日 端云、次日舎人十四人二行云々、	一卷
七一	年代不明日記	残欠	端云、三日己酉晴云々、	一卷	九七	年代不明日記	残欠	端云、抑昨日禁裏云々、	一卷
七二	年代不明日記	残欠	端云、伝燈大法師云々、通俊卿云々、	一卷	九八	年代不明日記	残欠	端云、由被給下被下仰之間云々、	一卷
七三	年代不明日記	残欠	自廿六日至廿九日 奥云、貞和二年三月三日取目六了、	一卷	九九	年代不明日記	残欠	端云、云々、奏上可召仰者由被仰云々、	一卷
七四	年代不明日記	残欠	自廿三日至廿六日 文字消損不可読、	一卷	一〇〇	年代不明日記	残欠	自六日至十一日 端云、殿執筆云々、	一卷
七五	年代不明日記	残欠	端云、劍御座云々、	一卷	一〇一	年代不明日記	残欠	端云、入夜着束帯云々、	一卷
七六	年代不明日記	残欠	端云、一番頭釜殿云々、	一卷	一〇二	年代不明日記	残欠	自十三日至十七日 端云、甲申晴云々、	一卷
七七	年代不明日記	残欠	端云、己丑大閉云々、	一卷	一〇三	年代不明日記	残欠	端云、事由仰大理云々、	一卷

一〇四	年代不明日記	残欠	端云、十九日丙寅云々、	一卷	園太曆 第十五	自貞和六年七月至十二月
一〇五	年代不明日記	残欠	端云、十六日朝間有陰氣云々、	一卷	園太曆 第十六	自親応二年正月至六月
一〇六	年代不明日記	残欠	自廿四日至廿八日 端云、乙未朝日陰晴云々、	一卷	園太曆 第十七	自親応二年七月至十二月
一〇七	年代不明日記	断篇		一卷	園太曆 第十八	自親応二年八月六日写了、按察使藤原親長
一〇八	年代不明日記	残欠	端云、三十日丙子晴云々、	一卷	園太曆 第十九	自親応二年正月至九月
一〇九	年代不明日記	残欠	端云、御前入御之後云々、	一卷	園太曆 第二十	自親応二年四月至九月
一一〇	年代不明日記	残欠	端云、鶯花契君云々、御 撫路云々、何事御程云々、	一卷	園太曆 第二十一	自親応二年十月至十二月
一一一	年代不明日記	残欠	端云、中原盛景云々、	一卷	園太曆 第二十二	自文和二年正月至六月
一一二	年代不明日記	断篇		一卷	園太曆 第二十三	自文和二年正月至六月
一一三	年代不明日記	残欠	端云、霜逢八旬之秋髪云々、	一卷	園太曆 第二十四	自文和四年正月至十二月
一一六	年代不明日記	残欠	自四月廿九日	一卷	園太曆 第二十五	自文和五年正月至六月
一一七	年代不明日記	残欠	自十九日至廿四日 端文字消損不可読、	一卷	園太曆 第二十六	自文和五年二月至三月

○第十一号函

園太曆 第一	自文和二年七月至九月卅日 奥云、文明九年六月六日事了、都	一卷	園太曆 第二十九	自延文二年正月至六月	一卷
園太曆 第二	自康永三年正月至三月 奥云、長享元年十一月十三日書写了、按察使藤原親長	一卷	園太曆 第三十	自延文二年七月至十二月	一卷
園太曆 第三	自康永三年七月至十二月 奥云、長享元年十二月五日書写了、按察使藤原	一卷	園太曆 第三十一	自延文二年正月至九月	一卷
園太曆 第四	自康永四年正月至六月 奥云、長享元年後十一月十四日書写了、按察使藤原親長判	一卷	園太曆 第三十二	自延文四年正月至十二月	一卷
園太曆 第五	自康永四年七月至十一月 奥云、長享元年後十一月卅日書写了、按察使藤原親長	一卷	園太曆 第三十三	自延文五年正月至三月	一卷
園太曆 第六	自貞和二年正月至五月 奥云、此卷連々有合戰事、少々依無益不写之、	一卷	園太曆 第一	延慶四年 奥云、長享元年十一月廿一日書写了、按察使藤原	一卷
園太曆 第七	自貞和二年七月至十二月 奥云、長享元年十二月廿九日書写、按察使藤原	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第八	自貞和三年正月至六月 四月ノ記無之、 奥云、長享二年正月廿九日書写、按察使	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第九	自貞和三年七月至十二月 奥云、長享二年二月十九日書写了、按察使藤原親長	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第十	自貞和四年七月至九月	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第十一	自貞和四年十月至十二月	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第十二	自貞和六年正月至四月 奥云、長享二年六月六日書写了、按察使藤原親長	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第十三	自貞和六年正月至四月	一卷	園太曆 目錄		一卷
園太曆 第十四	自貞和六年正月至四月	一卷	園太曆 目錄		一卷



五三	四所以下任例	足利時代	三綴	七九	叙位記	諸記抜書	一卷
五四	女叙位入眼次第	足利時代	一卷	八〇	夕拝部類	叙位 奥欠	一卷
五五	除目執筆記	下	一卷	八一	江家次第抜書	除目改	一卷
五六	除目次第		一卷	八二	叙位間書	永正 大永 天文	一卷
五七	叙位入眼儀	足利時代	一卷	八三	宣旨文	写	一卷
五八	除目書	小折紙 足利時代	八枚	八四	除目記	端欠 鎌倉時代	一卷
五九	叙位次第	足利時代	一卷	八五	除目記	端欠	一卷
六〇	叙位次第	鎌倉末期	一卷	八六	叙位間書	文正元年	一枚
六一	撰家左大将以下任槐例	足利時代写敷	一卷	八七	除目次第		一卷
六二	女官叙位次第	足利時代敷	一卷	八八	台記除目抜書	奥雜事抄	一冊
六三	除目次第	足利時代敷	一卷	八九	除目召名		一冊
六四	大理補任	徳川時代写	一冊	九〇	県召除目申沙汰事		一冊
六五	除叙清要	徳川時代写	一卷	九一	叙位尻附例		一冊
六六	除目抄	徳川時代写	一卷	九二	除目竟夜次第	参議要	一冊
六七	除目書目録	徳川時代写敷	一包	九三	除秘		二冊
六八	補略		一卷	九四	除目短冊書様		一綴
六九	除目書類	端欠	一卷	九五	県召除目	宣胤卿記	一冊
七〇	拾遺宣下抄		一卷	九六	氏叙爵	小切紙	一冊
七一	撰関補任		一卷	九七	叙位間書		七通 一卷
七二	撰関昇進還補		一卷	九八	大間書	切々	一卷
七三	公卿補任	古写 残欠	一括	九九	小叙位次第	新作	一卷
七四	叙玉秘抄		四冊	一〇〇	太政官奏欸状		十二枚 一括
七五	叙位議	侍中要	一卷	一〇一	朔旦叙位記	宝徳元年十二月十二日	一卷
七六	叙位次第	納言執筆儀	一卷	一〇二	県召除目間書	文明十三年	一卷
七七	叙位略次第		一卷	一〇三	欸状	天文年間	廿四通 一卷
七八	叙位略次第	関白不参之儀作法	一卷	一〇四	任槐の記	永徳元年七月	一卷

一〇五	県召除目問書	天文九年	八枚	一三一	任大臣節会聞書	一卷
一〇六	叙位問記	明応二年四年	三枚	一三二	小叙位請文	一通
一〇七	叙位記	応安六年 宝徳元年 端欠	一卷	一三三	除目次第	一卷
一〇八	成恩寺関白記拔書	永徳御即位叙位記	一卷	一三四	加階叙位例	一卷
一〇九	請文申文	慶長年間	一括	一三五	除目書類	一卷
一一〇	叙位	侍中要	一冊	一三六	除目書類	一卷
一一一	年給申文	応永十年	一通	一三七	申文目錄書様	除目部類
一一二	申文宣旨	応安寛永年間	一括	一三八	除目鈔	一卷
一一三	崇賢門院年爵申文	応永十六年	一通	一三九	春除目次第	一卷
一一四	叙位問書	寛正四年六年	二枚	一四〇	叙位記録	一括
一一五	県召除目申文案		二冊	一四一	除目書	五冊
一一六	陪膳次第		一卷	一四二	申文	天年文年間以降
一一七	任大臣節会次第		一卷	一四三	歎状	足利時代一冊 慶長年代一卷
一一八	除目書類		十一冊	一四四	小叙位方切符	一冊
一一九	除目書類		(六卷)			
一二〇	叙位略次第		一冊		儀式部類	*15
一二一	叙位簿		一卷	一	東宮御元服記	寛仁二年三年
一二二	除目書類其他		一括	二	式次第書	奥云、応徳三年二月七日書記云々、
一二三	小除目次第		一卷	三	官奏事	元永二年
一二四	除目竟夜次第		(二卷)	四	治承二年宇佐使の記	
一二五	除目問書	天文十八年	一卷	五	大嘗会国郡定陣儀	
一二六	歎状		一卷	六	建永二年承元三年元日節会建永二年正月二日朝覲行幸記	一冊
一二七	除介以下秘抄		一冊	七	祈年穀奉幣用脚二関スル状	兼宣卿記
一二八	除目次第		一卷	八	節会具注進	一卷
一二九	除目問書其他		一括	九	任大臣次第	兼仲卿筆
一三〇	小叙位次第		一卷	一〇	石清水放生会書類	一卷

\*13

\*14

※16

一一	仁王会祝願草奏事	鎌倉時代歟	一卷	三七	八講捧物目錄	奥云、寛正六年九月	一卷
一二	四方拝次第書	寛喜二年	一卷	三八	次第書	兼仲卿筆	一卷
一三	寛元かな記	着帯之事	一卷	三九	文明年中儀式書	残欠	一卷
一四	庁居室礼	正和度被注進、	一卷	四〇	御車乗下次第	永正十八年三月云々	一卷
一五	妙蓮華院結界記録	嘉暦四年	一卷	四一	御即位御料足事	永正年間	一卷
一六	大嘗会次第書	良基卿記	一卷	四二	元日節会散状	天文七年	一通
一七	仁王会次第	足利初期歟	一卷	四三	元日節会略次第	奥云、天文十二年十二月日	一卷
一八	東大寺興福寺并諸寺別当檢校等次第書	足利初期歟	一卷	四四	宣命写	天正十七年正月七日 天文十八年正月一日	一通
一九	七仏薬師法奉行記	応永七年二月	一卷	四五	大嘗会中御進退	足利時代	一冊
二〇	八講散状并僧名	応永九年十一月	一卷	四六	大祀和歌詠草	足利時代	一冊
二一	親王元服記	応永十八年十一月	一卷	四七	踏歌節会次第	足利時代	一卷
二二	応永十九年御幸記	九月廿七日 兼宣卿筆	一卷	四八	白馬次第	足利時代	一卷
二三	重陽平座	応永十九年	一卷	四九	続内弁儀	足利時代	一卷
二四	荒見川祓御記	応永廿二年八月	一卷	五〇	八幡春日参詣記	足利時代	一卷
二五	積奠廻文記	応永廿二年	一卷	五一	御即位大嘗会雑事	足利時代歟	一卷
二六	八幡御幸記	応永廿九年	一卷	五二	白馬節会次第書	年代不明	一卷
二七	積奠記	応永廿九年二月	一卷	五三	行幸出御	足利時代歟	一冊
二八	仙洞御修法記	応永三十一年五月	一卷	五四	八幡御幸散状	足利時代歟	一冊
二九	白馬節会	奥云、応永卅三年書之云々、	一卷	五五	秋季仁王会次第書	足利時代歟	一卷
三〇	御修法御参記	応永年代	一卷	五六	御礼節	足利時代歟	一卷
三一	永享式年大嘗会主基方費用記		一卷	五七	神宮東大寺其他雑事	足利時代歟	一卷
三二	御直衣始記	永享四年	一卷	五八	年中行事	足利時代写歟	一冊
三三	舍利講式	嘉吉二年卯月廿八日	一卷	五九	大嘗会以下諸公事雑書	足利末期	一卷
三四	宣命	康正元年八月	一卷	六〇	白馬節会次第書	天正年代之儀 慶長四年写	一卷
三五	踏歌次第書	奥云、康正三丁丑年正月踏歌節会参之間此本借請中山大納言親通卿用之、	一卷	六一	四方拝節会	慶長廿年	一卷
三六	春日祭参行記	寛正六年三月廿五日	一卷	六二	大内記從陣所役例記	慶長以後歟	一卷

※17

一	八講捧物目錄	奥云、寛正六年九月	一卷
二	次第書	兼仲卿筆	一卷
三	文明年中儀式書	残欠	一卷
四	御車乗下次第	永正十八年三月云々	一卷
五	御即位御料足事	永正年間	一卷
六	元日節会散状	天文七年	一通
七	元日節会略次第	奥云、天文十二年十二月日	一卷
八	宣命写	天正十七年正月七日 天文十八年正月一日	一通
九	大嘗会中御進退	足利時代	一冊
一〇	大祀和歌詠草	足利時代	一冊
一一	踏歌節会次第	足利時代	一卷
一二	白馬次第	足利時代	一卷
一三	続内弁儀	足利時代	一卷
一四	八幡春日参詣記	足利時代	一卷
一五	御即位大嘗会雑事	足利時代歟	一卷
一六	白馬節会次第書	年代不明	一卷
一七	行幸出御	足利時代歟	一冊
一八	八幡御幸散状	足利時代歟	一冊
一九	秋季仁王会次第書	足利時代歟	一卷
二〇	御礼節	足利時代歟	一卷
二一	神宮東大寺其他雑事	足利時代歟	一卷
二二	年中行事	足利時代写歟	一冊
二三	大嘗会以下諸公事雑書	足利末期	一卷
二四	白馬節会次第書	天正年代之儀 慶長四年写	一卷
二五	四方拝節会	慶長廿年	一卷
二六	大内記從陣所役例記	慶長以後歟	一卷

六三	寛永行幸次第	古刊本	三卷	八九	踏歌節会次第書	一卷
六四	寛永行幸記	奥云、宝永三丙戌年晚春上旬	一冊	九〇	踏歌節会御申沙汰	一卷
六五	寛永八年朔旦冬至賀表		一卷	九一	仁王會記	一卷
六六	承応元年仙洞御会詠草		一括	九二	八講記	一卷
六七	承応三年劍璽渡御列書		一卷	九三	御齋會記	一卷
六八	山門大会參向記	元禄三年	一冊	九四	行幸内侍所事	一卷
六九	節会内弁例	端云、寛永云々、	一卷	九五	上皇御幸記	一卷
七〇	鹵簿次第書	徳川時代	一卷	九六	節会書類	一通
七一	儀式書	新写	一卷	九七	賀茂祭再興記事	一冊
七二	諸例目録	徳川時代写	一卷	九八	八幡參詣記	一卷
七三	内侍所御神楽申沙汰以下数枚		一卷	九九	諸公事次第諸	一卷
七四	大嘗会巳日次第		一卷	一〇〇	即位式次第	一卷
七五	大嘗会午日次第		一卷	一〇一	諸儀条々	一卷
七六	大嘗会行事所始条々		一卷	一〇二	年中行事秘抄	一卷
七七	大祀和歌詠草		一卷	一〇三	年中行事	一卷
七八	御讓位惣用帳		一卷	一〇四	弘安礼節	一卷
七九	元日平座職事仰詞有無事状		一卷	一〇五	朔旦冬至部類	一卷
八〇	元日節会	鎌倉末期歟	一卷	一〇六	庁始次第	一卷
八一	元日節会次第		一卷	一〇七	公宴和歌部類	一冊
八二	三節会并四方拝記		一卷	一〇八	和歌会始部類	一卷
八三	三節会集書并叙位除目		一卷	一〇九	檢非違使別当行列書	一卷
八四	十六日節会晴御膳記		一卷	一一〇	上卿簡要抄	一卷
八五	節会装束礼節		一卷	一一一	陣申文作法	一通
八六	警固中節会部類	諸記抜書	一卷	一一二	御直衣始記	一通
八七	節会問答書	端欠	一卷	一一三	大将拝賀記	一卷
八八	白馬節会次第書	足利時代歟	一卷	一一四	幣使可被用新道哉否哉事	一卷

※18

一一五	故実集書	<small>卷百二、兼郷御筆准后宣 下トアルモ内容ト合ハス</small>	一卷	一四一	踏歌節会記事	一卷
一一六	白馬節会御教書案	<small>資光卿</small>	一卷	一四二	永仁二年三月行事記	一枚
一一七	今出川殿御直衣始の記		一卷	一四三	都状写	<small>応永七年三月十日 奥欠</small>
一一八	仙洞和歌講師作法	<small>引接院殿筆</small>	一卷	一四四	諸司平座料注進	一卷
一一九	仗儀御参事	<small>引接院殿筆</small>	一卷	一四五	祈年穀奉幣要脚之事	一通
一二〇	拝賀著陣以下	<small>兼顯卿筆</small>	一卷	一四六	北山殿参向記	一卷
一二一	文安六年御元服記録		一卷	一四七	放生会書類	<small>永享十年八月</small>
一二二	旬記	<small>端欠</small>	一卷	一四八	正応五年正月行事記	一枚
一二三	正応五年以降正月公事拔書	<small>九</small>	一卷	一四九	応永廿六年祈年穀奉幣使散状	一卷
一二四	室町家院司拝賀記	<small>寛正五年七月廿五日</small>	一卷	一五〇	維摩会講師補任次第	一卷
一二五	室町家大納言直衣始之記	<small>宝徳二年七月五日 綱光卿記</small>	一卷	一五一	御拝賀条々	一卷
一二六	室町家大納言直衣始装束召具記	<small>宝徳二年七月五日</small>	一卷	一五二	大嘗祭和歌作者留	一卷
一二七	玉葉抄	<small>節会</small>	一冊	一五三	兼宣卿下知状	<small>神宮参向ノ件</small>
一二八	室町家大納言直衣始記	<small>宝徳二年七月五日 万里小路前内大臣記</small>	一卷	一五四	褻御幸始供奉殿上人交名	<small>応永十九年</small>
一二九	法勝寺大乘会御申沙汰御教書	<small>応永廿九年</small>	一卷	一五五	御八講記	一冊
一三〇	賀茂祭祀	<small>応永廿七年三月十日</small>	一卷	一五六	御彦七夜次第	一冊
一三一	柳原第行幸親王宣下記	<small>応安四年三月廿一日</small>	一卷	一五七	御即位次第	<small>寛永七年 関白信尋公本</small>
一三二	御修法外典祭奉行	<small>応永十一年</small>	一卷	一五八	御即位次第	<small>寛永七年</small>
一三三	平野祭参向記	<small>享徳二年四月</small>	一卷	一五九	御方違行幸次第	一卷
一三四	経供養記		一卷	一六〇	践祚御訪方事	一卷
一三五	室町殿伊勢参向記		一卷	一六一	慶安三年朔旦冬至記草	一卷
一三六	放生会参向記	<small>応永廿八年</small>	一卷	一六二	慶安三年朔旦冬至次第	一卷
一三七	中文奏聞作法		一卷	一六三	践祚次第	一卷
一三八	朝餉御琴御灌頂記	<small>宝徳二年四月</small>	一卷	一六四	次第書	<small>端欠</small>
一三九	八幡社参記	<small>応永十六年六月</small>	一卷	一六五	元日節会次第	一卷
一四〇	興福寺上棟別記	<small>弘安二年十月</small>	一卷	一六六	儀式書類	一括



二三	革命革命令定記	裏具注曆	一卷	四九	改元部類記	永徳年間	一卷
二四	改元記	応永職事要	一卷	五〇	寛正年号勘文	中右記抜書	一卷
二五	改元記	猪隈殿記	一卷	五一	改元部類記	端目録云、天福一範輔卿記 文暦一師定朝臣記	一卷
二六	改元記	諒闇年改元之事	一卷	五二	改元部類記	菅大府記 年号勘文	一卷
二七	改元記	寛元 宝治 建長	一卷	五三	改元部類	端云、崇徳院云々、	一卷
二八	改元記	宝治	一卷	五四	年号勘文	端云、建永文選曰云々、	一卷
二九	改元定記	中院大納言筆	一卷	五五	年号勘文	端云、内々勘文年号事	一卷
三〇	改元条事定		十三通 一括	五六	年号勘文	端云、範朝此外云々、	一卷
三一	改元勘文	端云、勘進年号事云々、	一卷	五七	年号勘文	端云、和保毛詩曰云々、	一卷
三二	改元勘文	長享三年八月	一卷	五八	年号勘文	端云、年号事云々、	一卷
三三	改元諸道勘文次第		一卷	五九	年号勘文	端云、天曆度、	一卷
三四	改元文書		三通 一括	六〇	年号勘文	端云、天曆度、	一卷
三五	改元官旨部類		一卷	六一	年号勘文書類		一括
三六	革命定記		一卷	六二	年号難陳	徳治三年	一卷
三七	年号勘文	端云、夏文周易曰云々、正治以下、	一卷	六三	年号勘文	貞徳 応長 仁安等	一卷
三八	改元記	端云、康永云々、	一卷	六四	年号勘文		一卷
三九	改元定及年号勘文	照念院寛元五年記写	一卷	六五	年号勘文	奥云、大治元年二月十八日云々、	十通 一括
四〇	明経道注進	永徳年間	一卷	六六	年号勘文		一卷
四一	改元書類		六冊	六七	年号勘文	貞応元仁等ノ年号アリ、	一卷
四二	応永改元職事要	兼郷卿筆	一卷	六八	元和改元記		四枚 一冊
四三	改元次第書		二包	六九	日野家代々年号勘文		一卷
四四	改元書類		廿一冊	七〇	年号勘例	端云、昭仁云々、	一卷
四五	改元書類	年号勘例記	一卷	七一	年号難陳	文弘	一卷
四六	改元書類		十一冊	七二	年号字訓		一卷
四七	改元書類		一括	七三	元秘抄		二卷
四八	改元部類記	端云、貞和六年正月廿六日云々、	一卷	七四	条事国解革命令次第		一卷



四一	美濃国上有智庄管領地ノ事	貞和四年	一卷	六八	消息其他	応永年代	一卷
四二	家領文書	兼宣卿	一卷	六九	古文書	足利時代	一括
四三	請雨法	建曆三年八月	一卷	七〇	内々御盃參之作法		一卷
四四	足利時代寺領社領關係文書		一卷	七一	古文書	足利時代末期ヨリ徳川初期	一括
四五	遺跡条々		一卷	七二	古文書	足利時代以降	一卷
四六	宣旨其他書類	延徳文安等	一卷	七三	古文書		一括
四七	御判物	応永其他	四枚	七四	女房奉書	応永卅一年四月十一日	一枚
四八	下知状	正応其他	四通	七五	式次第書	残欠	一通
四九	諸記抄		一卷	七六	消息		一卷
五〇	沽券	正治 承元 嘉禎 貞応	六枚	七七	沽券請状書翰		四通
五一	沽券	文永 弘安 建長	四枚	七八	制法	曆応三年五月	一括
五二	古文書	承和 文明 寛正等	一括	七九	古文書		一卷
五四	但馬雀岐庄ノ具書	自文永十至応安元	一卷	八〇	古文書		一卷
五五	消息		十一通	八一	古記殘闕	足利時代	一卷
五六	古詠草	入点	一卷	八二	女房奉書	足利時代	二卷
五七	中園抄		一冊	八三	記録断篇	使序沙汰以下	一卷
五八	酒麴課役事	明徳四年	一卷	八四	堂供養事	正治元年	一卷
五九	古文書		三通				
六〇	古文書		一括		資料	※27	
六一	古文書	断篇	三通	一	仮名状		一卷
六二	一見所要事抄出先例等集書	町亞槐筆	一卷	二	文書		一括
六三	神宮關係文書		一卷	三	和歌并節会記	寛永十年十二年	一冊
六四	古文書		一括	四	正保五年裁許状		一通
六五	撰関伝		一卷	五	女房奉書		一卷
六六	貞兼書状		一通	六	和歌書様端作		一卷
六七	古文書		十三通	七	交名		二枚

八	十七条憲法	古写本	一卷	三五	古記殘闕	端云、藏人方云々、	一卷
九	康富記抄		一帖	三六	百官唐名抄		一卷
一〇	和漢書目錄		一卷	三七	雜書類		一括
一一	地下散状其他		一括	三八	入木口伝抄		一冊
一二	諸記抜書		三枚一括	三九	連歌新式		一冊
一三	消息	足利時代	七通	四〇	雜書類		一卷
一四	消息		二通	四一	雜書		一括
一五	官旨写	中ニ慈円牛車官旨アリ、	一卷	四二	雜書		一括
一六	官旨部類		一卷	四三	雜書		一括
一七	和歌書式		一卷	四四	古文書		一括
一八	雜書		二枚	四五	古文書		一括
一九	経頭卿文書		一通	四六	世俗淺深秘抄 <sub>下</sub>		一卷
二〇	官胤卿消息		一通	四七	家伝抄		一卷
二一	太政官奏		三通	四八	古文書		一卷
二二	和歌詠草		一卷	四九	古書類		一括
二三	雜書		二通	五〇	雜書		一括
二四	雜書		一通	五一	雜書		一括
二五	触穢ニ就テノ消息		一通	五二	古記	足利時代	一卷
二六	歴代御諱留	端奥欠	一括	五三	勅撰集作者留		一卷
二八	藏人所出納安両家御牒御下知官官旨并一通等之写		一卷	五四	消息	足利時代	七枚
二九	天台座主記	天文年代迄	一冊	五五	改名欸状	宝永	一通
三〇	天文十四年諸賞例		一冊	五六	欸状	足利時代及慶長年代	一括
三一	詩集草稿		一冊	五七	町並相記抜書		一卷
三二	禁中并公家法度		一卷	五八	雜記	端云、翡翠鳥名云々、	一卷
三三	三万六千神祭祀		一卷	五九	榎富石塚庄事		一卷
三四	保元度諸仰申詞		一卷	六〇	御厨子所調進書		一卷

※28

六二 經光卿記拔草 改元ノ条  
 ※29

六三 列名

六四 姓氏録零本

六五 蹴鞠之事 奥云、享保十九年八月

六六 蹴鞠之条々 奥云、天正廿年四月六日 藤原雅継在判

六七 蹴鞠之事 奥云、宝永六年六月五日

六八 雜書

六九 古記殘闕 足利時代

七〇 土公神免除奉行事

七一 諸家大系図 零本 古写

※31

(翻刻以上)

【東洋文庫本校異一覽】

※1 この箇所を押印(直径一・三cm、丸形、印文「言忠、朱印、以下印はすべて同じもの)。本文中で述べたように、綴じ目には上下表裏計四カ所に押印あり。

※2 「文三十二」の上に朱線を引き、左に「養二」と朱書傍書(以下、線・文字・点・抹消符等の書き込みはすべて朱筆による)。

※3 「云々」を縦線で抹消、その左に「書写献之」と傍書。

※4 「応永三年日記抄 十一月」から「応永五年日記抄 正月四月」までを、その下部において波カッコ(〱)で括り、その下に「二卷」と記す。また、この三書名の「二卷」をそれぞれ縦線で抹消。

※5 「園太曆目録」「二卷」を縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

※6 「園太曆目録」「二卷」を縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

上端に重ねて押印。

※7 この箇所に本文と文字高を揃えて「園太曆」「十冊」<sup>括</sup>と加筆。行頭に「追記」と記す。朱書による書名と巻数の追加は、以下すべて本文の文字高に揃えて行われている。

※8 「公敏卿記」「園太曆ノ内 文和二年」<sup>奥云、長享二年九月九日書写了、「二卷」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。</sup>

※9 「記録写」「園太曆ノ内 端欠 文和」「奥朱書云、此一冊巻物之写也」「一冊」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

※10 「〇第二十四号函」を墨点で抹消し(東洋文庫本における加筆で墨書が用いられているのはこの箇所のみ)、また縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

※11 この箇所に「巻物写」<sup>園太曆ノ内 端欠 文和 奥朱書云、此一冊巻物之写也</sup>と記し、その字の上端に重ねて押印。

※12 この箇所に「第十二号函」とあり。

※13 「二二九 除目問書其他」「一括」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

※14 「二三三 除目次第」「一巻」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端に重ねて押印。

※15 この箇所に「第二十号函」とあり。

※16 「二二 四方拜次第書」「寛喜二年」「一巻」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その上方に押印。

※17 「五九 大嘗会以下諸公事雜書」「足利末期」「二卷」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その上方に押印。

※18 この行、「会」と「次」の間に挿入符、その右傍らに「略」。また「書」を点で抹消。

※19 この箇所の余白に「一九五 任大臣節会内裏儀」「一巻」と加筆。行頭に「追記」と記し、その上方に押印。

※20 この箇所に「第七号函」とあり。

※21 「年号勘文」の左傍に抹消符、右傍に「改元部類記」。

※22 「二七 改元記 寛元 宝治 建長」「二卷」をそれぞれ縦線で抹消。行頭

- に「誤記」と記し、その字の上端を重ねて押印。
- ※23 「冊」の左に抹消符、右に「部」。
- ※24 この箇所「八四 改元勘文」「一卷」と加筆。行頭に「追記」と記す。
- ※25 この箇所に「八五 改元記」「一卷」と加筆。行頭に「同上」と記す。
- ※24の「追記」と「同上」の両方にかかるように押印。
- ※26 この箇所に「第十四号函」とあり。
- ※27 この箇所に「第八号函」とあり。
- ※28 「五六 歎状」「足利時代及慶長年代」「一括」をそれぞれ縦線で抹消。行頭に「誤記」と記し、その字の上端を重ねて押印。
- ※29 「六一 経光卿記抜草」「改元ノ条」「一卷」を縦線で抹消。行頭に「誤記 改元部類ノ下ニアリ」と記し、「六一」を重ねて押印。
- ※30 「六五」から「六七」まで、細字の下部において波カッコ（二）で括り、その下に「一括」と記す。
- ※31 最終丁裏の端、この位置に「以上総数壹千六拾六点」とあり。